

前回は津山城の天守の基礎について検討しました。今回はその基礎を受ける天守台の構築技術について検討してみます。

天守台の大きさは、津山城資料編に掲載の「作州津山御城内之記」「御天守之見」などに、基底部で東西12間（約23.6メートル）×南北13間（約25.6メートル）、上面が東西10間（約19.7メートル）×南北11間（約21.6メートル）、高さは3間（約5.9メートル）と記載されています。この値は実測図の値とほぼ一致しており、かなり正確な値であることが分かっています。

ところで、石垣には必ずこう配がついており、一般に「扇のこう配」などといわれるように石垣の美しさを際立たせる要素となっています（写真1）。



天守台北東隅角部（写真1）

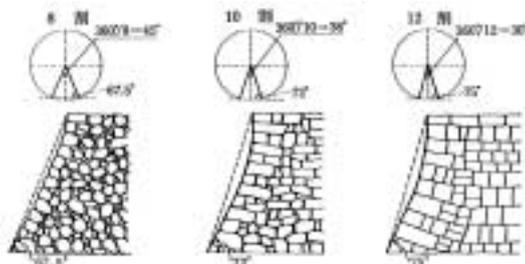
この石垣のこう配の取り方ですが、建築の理想としては石垣の基底部から垂直に積み上げるのが最も効率がよいのですが、それでは石垣が不安定になってしまいます。反対にあまりにもこう配を緩くすると、上に載る建物に対して基底部が大きくなりすぎて効率的ではありません。そこで使用する石材によって、自然石は垂直に積むことが困難なのでこう配を緩くし、切り石だとある程度垂直に積み上げてても比較的安定し

# 津山城百聞録

## 49 津山城の天守4 天守台の構築技術

ているのでこう配をきつくる傾向にあるようです。

1722年に荻生徂徠の記した「鈴録」では、法（石垣のこう配）について自然石は8割、割り石は10割、切り石は12割としています。8割とはこう配が67.5度、10割は72度、12割は75度に相当します（下図参照）。



石垣のこう配比較（下記文献より引用）

「鈴録」が刊行された時代は新規の築城がほとんど行われなかった時代であり、机上の理論的な傾向があったことは否めませんが、石材に対する石垣のこう配としてはこの数値が理想とされていたのは間違いありません。

さて、ここで津山城の天守台の話に戻ります。この石垣は東西・南北ともに基底部と上面の長さの差が2間です。さらに高さが3間ですから、石垣の隅角部のこう配は高さ3間に対して幅1間分のこう配となります。このこう配を計算すると71.5度となり、「鈴録」による割り石のこう配である72度にほぼ一致します。

天守台が造られた時点で「鈴録」の示すようなこう配の基準があったかどうかは定かではありません。しかし、この石垣を築いた技術者は「上面は基底部よりも両側を1間ずつ短くし、高さは3間」というごく簡単な比率を用いて、のちに理想とされる石垣こう配を見事に実現しているのです。

津山城の高度な石垣構築技術の一端が、いま見える事例の1つです。

参考文献：内藤昌「城の日本史」

広報から異動になりました。「分かりやすい広報を」と思い、自分なりにがんばったつもりです。自分が苦労して作った記事ほどみなさんからの反響も大きいと感じた3年間でした。これからも新しい職場でがんばります。それぞれそれぞれ、お祭りだー。(ひ)

(ひ)さん、3年間お疲れ様でした。私は広報に来て何とか1年がたちました。そしてこの1年間で、夫の料理のレパートリーがぐんと増えました。去年の今ごろはご飯も炊けなかったのに、何とかなるもんですね。(e)

津山城築城400年おめでとうございます。来年5月までの400日間は記念事業が目白押しで目が離せませんね。みなさんもこれらの催しにどんどん参加し、津山の歴史資産を再発見してください。(郁)

### 編集後記

### 今月の納税

固定資産税1期  
納期限：4月30日（金）

### ひとの動き

（3月1日現在）  
人口 90,176人（前月比 12）  
男 42,968人（同+9）  
女 47,208人（同21）  
世帯数 34,869世帯（同0）

### 2月中の異動数

出生 64人、死亡 58人  
転入 264人、転出 282人

4月  
2004

編集・発行 津山市企画部行政広報室  
〒708-8501岡山県津山市山北520  
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp  
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>  
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)  
発行日 毎月10日  
印刷 株式会社 廣陽本社

